葛西臨海公園マネジメントプラン

葛西臨海公園の管理運営、整備等の取組方針

令和４年３月

東京都建設局

目次

はじめに…………………………………………………… ４６－３

Ⅰ　葛西臨海公園の基本的事項……………………………… ４６－４
　１　都市計画等
　２　過去の取組等
　３　社会状況等の変化

Ⅱ　葛西臨海公園の開園概要………………………………… ４６－７
　１　開園区域の概要
　２　利用状況等

Ⅲ　葛西臨海公園の目標と取組方針
　１　むこう１０年間を見据えた主な目標……………………… ４６－８
　２　取組方針 ……………………………………………… ４６－１０
　（１）ゾーン別基本方針（ゾーン別基本方針図共）
　（２）維持管理の取組方針
　（３）運営管理の取組方針
　（４）安全・安心な公園への取組について
　（５）改修・再整備の取組について

Ⅳ　図面・写真 ……………………………………………… ４６－１９
　現況平面図
　周辺土地利用図（空中写真）
　周辺土地利用図（地図）
　葛西臨海公園の現況写真
　占用基準を緩和する区域図

<資料編>…………………………………………………… ４６－２５
　資料１　パークマネジメントマスタープランと公園別マネジメントプランについて
　資料２　葛西臨海公園に関する資料

はじめに

「葛西臨海公園マネジメントプラン」は、平成 27 年３月に改定された「パークマネジメントマスタープラン」における新たな東京の公園づくりの理念や目標、本公園の基本理念や時代の要請、ならびにこれまでの本公園における公園づくりの取組成果等を踏まえ、今後新たな 10 年間を見据えた公園づくりに必要な目標を設定し、当該目標を実現するための計画・整備・管理に係る基本的な取組方針を定めたものです。

今回の改定にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大や東京 2020 大会の開催など、これまでにない公園を取り巻く大きな社会状況の変化があったことから、これらを踏まえ「改定の視点」を新たに定め、本マネジメントプランの内容の追加充実を図りました。

また、本マネジメントプランは固定的なものではなく、目標や計画は継続的に見直し・改善を図るとともに、社会経済情勢の変化等への対応が必要となった場合には、柔軟に必要事項等について再検討を行い、適宜見直し改善を行っていくものです。

Ⅰ　葛西臨海公園の基本理念と時代の要請

１　基本理念

（１）都市計画の概要

・名　　称　　東京都市計画公園第９・６・２号葛西臨海公園
・位　　置　　江戸川区臨海町六丁目地内
・面　　積　　183.50ha（水域 100.4ha 含む）
・種　　別　　広域公園
・決定告示　　（当初）昭和 47 年 1 月 14 日　東京都告示第 40 号
　　（最終）昭和 60 年 6 月 17 日　東京都告示第 663 号

（２）葛西臨海公園の基本的な性格・役割

本公園は、東京臨海部の東に位置する都市計画公園である。荒川、中川放水路と旧江戸川河口に囲まれた位置で行われた「葛西沖開発土地区画整理事業」において、浚渫土砂及び建設残土による埋立造成された区域内あり、水域を含め計画決定された。南側には、東西の人工なぎさを有し、ラムサール条約湿地を含む葛西海浜公園（都立海上公園）（計画区域の一部が重なる）が隣接し、西側には夢の島公園や辰巳の森海浜公園（都立海上公園）、臨海副都心内の公園群に連なり、臨海部の水の緑のネットワークを形成する重要な役割を担っている。

本園は、水族園、鳥類園、芝生広場、大観覧車、展望レストハウス、レストラン、ホテル等の施設が整備され、計画区域内の陸域部分が開園されている。南側にある東なぎさと西なぎさからなる葛西海浜公園には、葛西渚橋で接続し、一体となって東京湾有数の海辺のレクリエーション・空間となっている。交通機関は多種多様で鉄道、バスに加え、海上バス等も運行されている。

2019 年には、本公園の隣接地にカヌー・スラロームセンターが整備され、東京 2020 大会において、カヌー（スラローム）競技会場として使用された。

なお、東京都地域防災計画及び江戸川区地域防災計画により防災上の重要な位置付けを持っている。

（３）整備計画

葛西臨海公園の整備計画の見直し（昭和 61 年）

次の基本的な考え方に基づき計画を行っている。

海と深いつながりを永い間もってきた葛西地区の歴史をふまえながら、都の公園系統計画に基づき、海辺の自然との調和のとれた公園とするものとし、それが地域の振興、活性化にも寄与するような計画とする。

２　過去の取組等

（１）過去の取組の成果

「葛西臨海公園マネジメントプラン(H27)」における重点目標に係る過去 7 年間の取組およびその成果等は、以下のとおりである。

〇東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて準備する公園

施設改修等により、アクセスの利便性向上、施設の快適性向上に取り組んだ。

〇民間活力の導入による新たな魅力を持った都立公園

占用基準を緩和した大規模コンサート、物販イベント等を実施した。

〇地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園

防災公園整備基本計画を策定し、防災関連施設を整備した。地域と連携した防災訓練、防災キャンプ等を実施した。

〇多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園

湿地拡大や池の水質改善等、野鳥の生息環境の保全や林床整理等を実施した。

〇独自の魅力づくりに取り組む都立公園

ナイトウォッチング、鳥類環境学習、秋の虫聞き等、公園の特性を生かしたイベントを実施した。

（２）葛西臨海公園の目指す姿

本公園は、過去７年間、以下の方針で指定管理者が運営管理に取り組んできた。

方針（１）　東京オリンピック・パラリンピックを全力でサポート

取組内容：・園内施設や交通機関等との連携の核となり開催に向け東京都をサポート
・東京オリンピック・パラリンピックの開催機運を醸成するため、スポーツイベントを開催
・インフォメーションの強化のため多言語化を推進

方針（２）　あらゆる想定で発災に備え、防災対応力を更に強化

取組内容：・職場ごとから全社的なレベルまで防災訓練を計画的に実施
・都、江戸川区、警察等との連携強化のため公園連絡協議会等を開催
・地域の様々な主体との防災訓練や、防災ワークショップを実施
・園内施設管理者との連携を強化し、合同避難訓練を実施

方針（３）　海辺のレクリエーション空間としての魅力向上

取組内容：・多くの方に楽しんで頂けるイベントを開催
・大規模花壇の魅力アップ

方針（４）　臨海部の貴重な自然の保全と普及

取組内容：・生物多様性保全戦略に則り、園内の自然環境の保全・活用
・自然ガイド等により、環境教育の場としてより広く展開

方針（５）　安全・安心・快適さを提供する堅実な維持管理

取組内容：・園内施設・設備の快適性を確保するため、計画的な補修・改良を実施
・ユニバーサルデザインに配慮した補修等の実施
・不適正利用の未然防止に努め、来園者が安心して楽しめる環境を提供
・安全・安心を確保するため、点検や迅速な補修等を実施
・ゴールデンウィーク等の繁忙期において駐車場に関する周辺道路への影響を緩和

３　社会状況等の変化

（１）社会経済情勢

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大
・激甚化する気象災害
・東京 2020 大会の開催
・価値観の多様化、少子高齢化、グローバル化の進行等に伴う公園利用ニーズの変化
・デジタル技術・データの活用の加速
・SDGs（持続可能な開発目標）の国際的な取組

（２）関連する行政計画

・「未来の東京」戦略（令和 3 年 3 月）
・都市づくりのグランドデザイン（平成 29 年 9 月）
・東京都景観計画（平成 30 年 8 月）
・東京都福祉のまちづくり推進計画（平成 31 年 3 月）
・緑確保の総合的な方針（改定）（令和 2 年 7 月）
・都市計画公園・緑地の整備方針（令和 2 年 7 月）
・東京都地域防災計画　震災編（令和元年 7 月）
・江戸川区地域防災計画（令和 2 年度修正）
・江戸川区「都市計画マスタープラン」（平成 31 年 3 月）

Ⅱ　葛西臨海公園の開園概要

１　開園区域の概要

（１）開園の概要

名　　称　都立葛西臨海公園（かさいりんかいこうえん）
開 園 日　平成元年６月１日
開園面積　778,597.49 ㎡（令和３年 12 月１日現在）
公園種別　広域公園
所 在 地　江戸川区臨海町六丁目
アクセス　ＪＲ京葉線・武蔵野線「葛西臨海公園」、東京メトロ東西線「西葛西」・「葛西」から都営バス（葛西臨海公園行き）終点、京成バス「シャトルセブン」（東京ディズニーリゾート行き）「葛西臨海公園駅」、東京水辺ライン「お台場海浜公園」から約 50 分「葛西臨海公園」、駐車場（有料、24 時間）

（２）主な公園施設

管理事務所、葛西臨海水族園、鳥類園、展望レストハウス、展望広場、汐風の広場、芝生広場、大観覧車、バーベキュー広場、ホテルシーサイド江戸川（区所管）

２　利用状況等

（１）利用概況

当公園の利用者のうち、多くが葛西臨海水族園を訪れることから、水族園の閉園日を除く平日は、主に中学生以下の遠足の利用が多い。休日になると団体で水族園、園内の散策、バーベキューの利用が見られる。また汐風広場でピクニックしながら昼食する姿が良く見られる。鳥類園のあるエリアはそれほど混雑していない。

（２）利用者動向（推計値）

・年間利用者数の推移

	２年度	元年度	３０年度	２９年度	２８年度
年間総計（人）	1,948,788	3,286,916	3,754,441	3,918,243	3,753,205

・月別利用者数の推移

２年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月
年間総数（人）1,948,788	72,576	91,750	104,816	137,754	292,902	212,315
	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
	239,539	267,058	128,029	146,268	146,238	109,543

（３）主な活動団体（詳細は資料編参照）

３団体・約 50 名が、花壇づくりや自然保護活動などを行っている。

（４）主な催し物開催状況（令和２年年度実績は資料編参照）

「防災ショールーム PR」「スポーツイベントの開催」「地域連携防災訓練」などが行われた。

Ⅲ　葛西臨海公園の目標と取組方針

１　むこう１０年間を見据えた主な目標

本公園の基本理念、および社会状況の変化等の内容を踏まえ、むこう 10 年間を見据えた取組の中で本公園が目指す主な目標を次のように定める。

なお、本目標及び各方針の実現に向けた具体の数値目標については、事業計画等の作成時に状況に応じそれぞれ適切に設定し、マネジメントサイクルのなかで見直し等行っていく。また、【　】内には、関連するパークマネジメントマスタープランのプロジェクト名を記載した。

■目標１：東京 2020 大会をレガシーとして継承する都立公園

【プロジェクト１　国際的な観光拠点となる公園づくりプロジェクト】

東京 2020 大会に向けて、障がい者や高齢者等の社会的障壁の除去を推進するため、ユニバーサルデザイン化をした施設については、適切な維持管理を行っていく。

また、大会の機運を高めるため実施してきたイベントについては、大会レガシーとして継続するとともに、隣接するカヌー・スラロームセンターと連携するなどして、さらなる発展を促進する。

◎主な取組確認項目：施設管理の取組、大会レガシーとしての取組

■目標２：地震災害時への対応のため、防災機能を強化・充実した都立公園

【プロジェクト４　防災公園の機能強化プロジェクト】

地震発生時の防災機能を発揮するため、下記の防災上の位置づけをふまえ、区の防災所管部署や地域住民等と連携し、防災訓練などの実施などによる防災意識の向上や防災対策を強化する。

・東京都地域防災計画による指定
　避難場所
　大規模救出救助活動拠点候補地（第３駐車場）
　医療機関近接ヘリコプター緊急離着陸場候補地（第３駐車場）
　災害時臨時離着陸場候補地（第３駐車場）
・江戸川区地域防災計画による指定
　避難場所

◎主な取組確認項目：防災訓練等の実績

■目標３：多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園

【プロジェクト７　都立公園の生物多様性向上プロジェクト】
【プロジェクト８　自然とのふれあいプロジェクト】

本公園を良好な生物の生息・生育空間として機能させるために、多様な生物の生息・

生育環境に配慮した環境整備を進めるとともに、公園内の動植物の保全・育成活動を充実させていく。

また、様々な体験を通して利用者に自然の大切さを体感してもらうため、この公園独自の自然環境を利用した取組を行っていくとともに、ボランティア等の協力を得ながら、自然環境の保全・回復を図っていく。

◎主な取組確認項目：生物生息・生育空間整備の取組、生物の保全・育成の取組、自然体験等の取組

■目標４：独自の魅力づくりに取り組む都立公園

【プロジェクト９　都立公園の魅力向上プロジェクト】

公園の魅力を向上させ、利用促進につなげるため、人々が憩い、ビューポイントとなる風景等を創出していく。

また、より多くの方々に公園の魅力を伝えるため、デジタル技術の活用などを通して情報や魅力の発信を強化する。

◎主な取組確認項目：魅力発掘の取組

■目標５：都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

【プロジェクト１０　パートナーシップ推進プロジェクト】

【プロジェクト３　公園の多機能利用と民間の活力導入促進プロジェクト】

都立公園の魅力をさらに高め、都民にとって都立公園をより身近な空間とするため、都民や公園ボランティア、NPO、地元自治体や地域住民、民間事業者等の多様な主体とともに公園の管理運営を進めていくとともに、管理所を公園情報の受発信の拠点としていく。

また、デジタル技術の活用などを通した情報や魅力発信や、利用者間や公園管理者と利用者などの多世代の交流を促進していく。

さらに、都立公園の魅力をさらに高め、東京の活性化に寄与するため、占用基準を緩和した区域でのイベント開催を進めていく。

◎主な取組確認項目：都民協働の取組、地域との連携の取組、企業との連携の取組、情報受発信等の取組、占用基準を緩和したイベントの実績

２　取組方針

本公園が目指すべき主な目標を実現するため、利用者の満足度向上を念頭に、管理や整備等にかかわる取組方針について、各項目の主旨はもとより安全・安心や環境への取組み等にも考慮したうえで次のとおり定める。

（１）ゾーン別基本方針

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくために、園内の各ゾーンについて現況等も踏まえ機能･目的・自然的環境等により類型化し、ゾーン毎の基本方針を定め、各ゾーンの特徴を際立たせて効果的な予算の執行等を図る上での基本的な方針とする。

なお、ゾーン別基本方針は、原則として開園区域を対象に定めるものとし、新規開園区域があった場合は、整備内容等を踏まえ、必要に応じ追記等を行う。

Ａ：多目的広場ゾーン

・バーベキュー広場のあるゾーン

バーベキュー広場として施設を良好に保つとともに、明るい疎林地として休息や交流等の利用にも対応していく。

Ｃ：イベント広場ゾーン

・展望広場のあるゾーン

緩やかな南側斜面の芝生広場を中心に、散策路、樹林、休憩舎等のある地区。イベント等の利用に対応していくとともに、散策・休息等を楽しめるよう対応していく。また、展望レストハウスは公園のシンボル施設として、海や芝生広場と調和した建築景観を確保するとともに、展望・展示・休息機能等を維持していく。

・汐風の広場ゾーン

親水護岸に沿う緩やかな勾配の芝生広場で、臨海部の景観や香りが満喫できる地区。イベント等の利用に対応していくとともに、散策・休息等を楽しめるよう対応していく。

Ｄ：入口広場ゾーン

・入口広場のあるゾーン

ＪＲ葛西臨海公園駅前に位置する広場であり、円形の噴水を中心に入口広場に相応しい景観づくりを行うとともに、待合・休息等の利用に対応していく。

・プロムナードのあるゾーン

葛西臨海公園駅の駅前広場と入口広場から、展望広場クリスタルビューまでの本公園の中心（骨格）となる園路で海へのプロムナードと称している。駅前の入口広場から展望広場に至る本公園の主園路である。休日には路上パフォーマンス等があり賑わいがある。多数の利用があり、動線が集中するため、安全性・防犯性を確保した快適な歩行空間としていく。

Ｅ：休息・散策ゾーン

・水と緑にかこまれた静かなせせらぎゾーン

海辺公園の中にあって木立に囲まれた渓谷的なイメージを持つせせらぎの水辺空間である。静かな木立のなかで散策や休息、緑陰を楽しめる空間としていく。

・芝生広場のあるゾーン

現在の広々とした開放的な空間を維持し、また、樹林地や蓮池は、季節感のある散策・休息空間としていく。

Ｈ：展示・学習ゾーン

・葛西臨海水族園のあるゾーン

公園中央部に設けられた葛西臨海水族園の施設を中心とする海の生物とのふれあいを楽しめる地区。運営主体が異なることから、双方が連携を図りながら、連結部など施設利用と調和した管理を行う。

Ｉ：修景ゾーン

・日本庭園のあるゾーン

松や梅を配植した日本庭園であり、ここを目的に訪れる利用者も見られる。現在の環境を維持していく。

Ｋ：環境共生・保全ゾーン

・鳥類園のあるゾーン

園内には、観察舎、ウォッチングセンター、上の池（淡水池）、下の池（汽水池）等が設置されており、池と周辺樹林地の自然環境と生物の多様性を維持、保全していくとともに、自然観察や環境学習の場として利用に対応していく。

Ｌ：水辺・親水ゾーン

・海域に面するゾーン

親水性の高い散策や休息、眺望の利用に対応していく。また、水上交通の発着場や葛西渚橋で連続する葛西海浜公園と連携して利用に対応していく。

Ｍ：駐車場ゾーン

・駐車場（第１、第３、臨時）のあるゾーン

案内機能の充実等を図り、車利用だけでなく、その他の来園者の安全にも対応していく。

なお、第３駐車場については、東京都地域防災計画で大規模救出救助活動拠点候補地、医療機関近接ヘリコプター緊急離着陸場候補地、災害時臨時離着陸場候補地に指定されている。公園利用者への周知を図るとともに、災害時使用に支障がでないよう、防災訓練等を通じて現状を把握し、機能確保を図る。

Ｏ：宿泊ゾーン

・江戸川区の宿泊施設のあるゾーン

運営主体が異なることから、双方が連携を図りながら、連結部など施設利用と調和した管理を行う。

Ｑ：外縁部ゾーン

・公共施設や公道、海域に接する公園外縁部

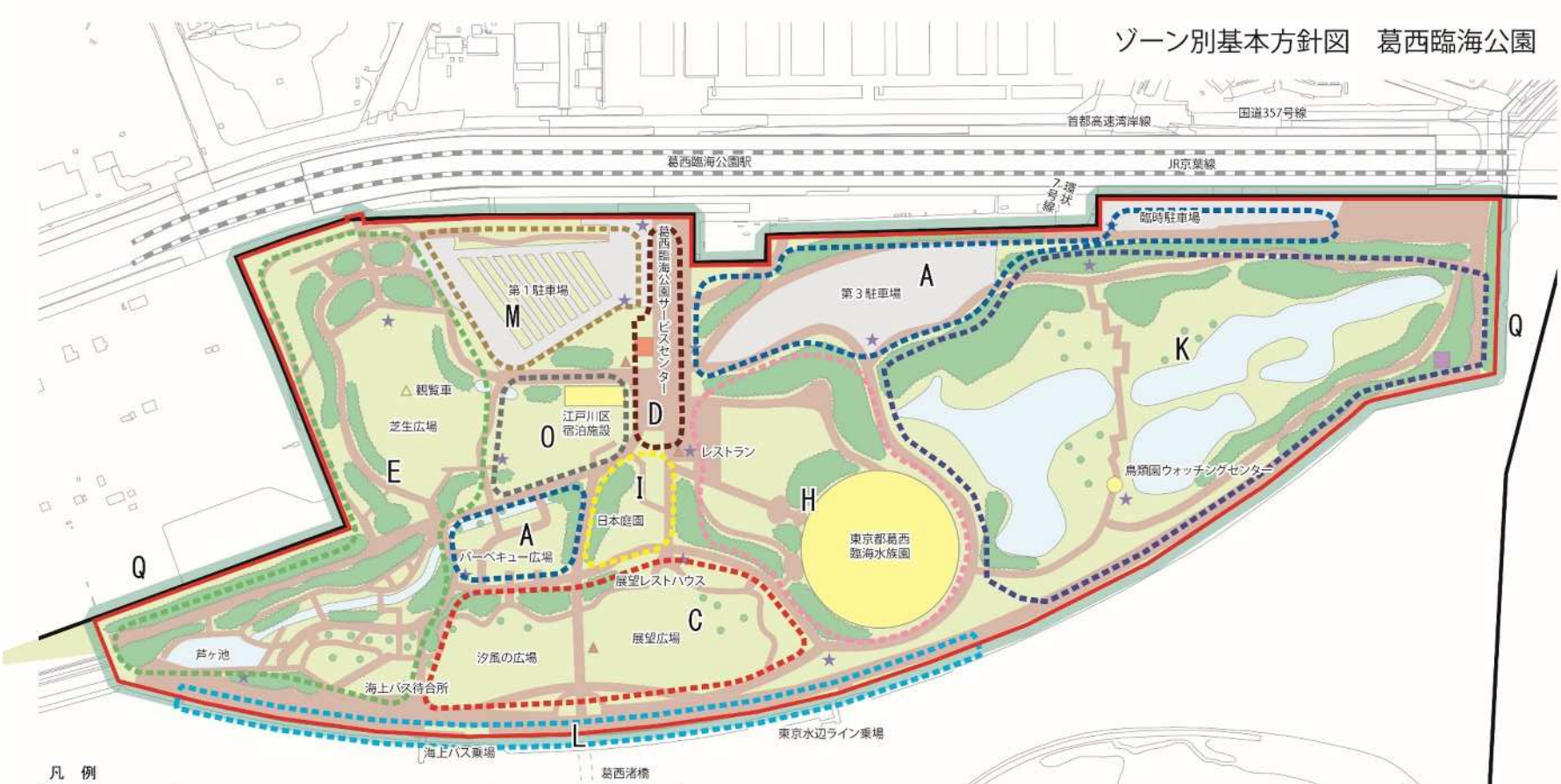
本公園の外縁部で、鉄道や幹線道路に面する所では、一体的に良好な景観の形成を図っていく。また、葛西渚橋で連続している葛西海浜公園や南側の海域など、海域との関係に留意する。

【ゾーンについて】

公園別のマネジメントプランでは、都立公園共通のゾーン区分（下表）を行っており、公園毎に施設内容が異なるため、公園毎にゾーン表記が異なる。着色部は本公園にあるゾーンを示す。

記号	区分	主な特性・機能
A	多目的広場ゾーン	多目的広場、草地広場、芝生広場、運動広場など、多目的な利用ができるゾーン。（バーベキュー広場、キャンプ広場、デイキャンプ広場などを含む。）
B	遊具広場ゾーン	児童遊具、健康遊具など、各種の遊具を中心としたゾーン。
C	イベント広場ゾーン	イベント利用に適した広場や施設などがあるゾーン。
D	入口広場ゾーン	シンボル的な入口広場として集散の場となるゾーン。
E	休息・散策ゾーン	散歩道、遊歩道、プロムナードなど、休息や散策の場となるゾーン。
F	尾根道散策ゾーン	丘陵地の尾根道など、散策の場となるゾーン。
G	スポーツゾーン	野球場、テニスコート、サッカー場、各種競技場、プール、体育館など、各種のスポーツの場となるゾーン。
H	展示・学習ゾーン	美術館、資料館、遺跡、城址など、各種の教養の場となるゾーン。
I	修景ゾーン	修景池、展望広場などの修景施設、または、草花、花壇、桜並木などの修景機能があるゾーン。
J	樹林ゾーン	外周部の樹林など、遮蔽機能等があるゾーン。
K	環境共生・保全ゾーン	多様な動植物が生息している豊かな自然環境を形成しているゾーン。
L	水辺・親水ゾーン	流れ、池、じゃぶじゃぶ池など、水に親しむことができるゾーン。
M	駐車場ゾーン	駐車場があるゾーン。
N	管理ヤードゾーン	管理ヤードとして利用するゾーン。
O	宿泊ゾーン	宿泊を目的とした施設があるゾーン。
P	植物園ゾーン	植物園（有料）として運営しているゾーン。
	（庭園関係）	「大泉水景観ゾーン」「芝生広場景観ゾーン」「富士山景観ゾーン」「山中の景観ゾーン」「田園景観ゾーン」など、各庭園に各種のゾーンがある。
Q	外縁部ゾーン	民有地や公道等に接する公園外縁部となるゾーン。

ゾーン別基本方針図　葛西臨海公園



凡　例

記号		名称	記号		名称
	A	多目的広場ゾーン		K	環境共生・保全ゾーン
	C	イベント広場ゾーン		L	水辺・親水ゾーン
	D	入口広場ゾーン		M	駐車場ゾーン
	E	休息・散策ゾーン		O	宿泊ゾーン
	H	展示・学習ゾーン		Q	外縁部ゾーン
	I	修景ゾーン			

この地図は、国土理院長承認（平24関公第269号）を得て作成した東京都地形図（S=1:2,500）を使用（3都市基交第267号）して作成したものである。無断複製を禁ずる。

（２）維持管理の取組方針

維持管理の取組方針については、すべての公園・緑地に共通する基本的考え方として基本事項を示し、当該公園・緑地の維持管理において、特に留意すべき事項を留意事項として提示する。

１）維持管理の基本事項

都立公園は、自然環境保全、防災、景観形成、レクリエーションなど多くの機能を有しており、首都東京の風格を高め、安全で快適な都民生活に不可欠な都市施設である。こうした機能を発揮させるためには、適正な維持管理により、公園施設の機能を確保する。

そのためには、公園の中心的・特徴的要素となる植物をはじめ、その基盤となる土や水、そこに生息する動植物なども含め、総体として守り育ていく。あわせて、公園利用者に対しては、公園を清潔に保ち、ユニバーサルデザイン化された施設も含めて快適な利用を提供するとともに、日常的な点検等通じて、樹木や斜面、施設の異常を早期に発見し、速やかに対応していくことで安全を確保し、安心して利用してもらう。

また、防災トイレなどの防災関連施設や貯留浸透施設等は、発災時においても円滑に使用・機能できるよう、日頃から点検・清掃等を行っていく。

さらに、効率的で質の高い維持運営管理のため、樹木や公園施設等のデータベースのクラウド化等のデジタル技術の活用推進も検討していく。

２）本公園の維持管理における留意事項

①多様な環境の創出

鳥類園などについて、海に面することもふまえ、生物多様性を保全するための整備や管理の計画に基づき、主要な動植物のモニタリング調査を行うとともに、その結果を活用した多様な生物の生息・生育環境に配慮した順応的な維持管理を行うことにより、動植物の保全と育成を進めていく。

②海へ開けた空間

区部で最大級の広さを有する本公園は、空間の広さと海への開放性が最大の魅力となっている。特に、汐風の広場および展望広場は、公園中央部から南面の海を臨むビューポイントとして維持管理を行う。

③路面緑化駐車場の維持管理

路面緑化駐車場（第 1 駐車場）については、車両の踏圧があるため芝刈りは行わず、補植や目土かけなどの維持管理を行う。

④海辺の埋立地における施設の維持管理

海辺の護岸については、特に潮風による施設の老朽化の進行及び、利用者のスリップ事故などに、また、本公園は埋立地上に整備されているため、地盤沈下による段差等の発生にも注意し、日常的な巡回、点検を行い、安全性、快適性の確保に努める。

（３）運営管理の取組方針

運営管理の取組方針については、すべての公園・緑地に共通する基本的考え方として基本事項を示し、当該公園・緑地の運営管理において、特に留意すべき事項を留意事項として提示する。

１）運営管理の基本事項

①　基本的な事項

都民のライフスタイルの多様化や高度化、少子高齢化の進展、新型コロナウイルス感染症の拡大による利用変化等、新たな時代のニーズに応じた公園の管理運営が求められている。公園やその周辺地域の特性を踏まえ、地域団体や民間事業者などと連携し、環境の変化や新たなニーズに応えるための運営管理を行う。

②　公園の適正な管理

都市公園法や東京都立公園条例等に基づき、公の施設として公平・公正な取扱いをするとともに、公園利用者が安全かつ快適に公園を利用できるよう、不適正な公園利用の是正、感染症や社会状況変化等に応じた利用ルールの変更及び迅速な周知徹底、受動喫煙防止対策、利用マナーの普及啓発等の適正な運営管理を行う。

③　利用促進

公園利用者から寄せられる様々な要望や苦情等を通じてニーズを的確に把握し、幅広い利用者層や利用目的に応じた質の高いサービスを継続的に提供するとともに、デジタル技術等も活用した利便性の向上や公園の魅力を発信に取り組む。また、利用ニーズの変化に対応し快適な利用を促進するため、屋外テレワークの場となる環境・空間やキッチンカー等を活用した飲食空間等の創出について検討していく。

④　管理運営における多様な主体との連携

公園の活性化や魅力向上のため、地元自治体や地域住民、民間事業者等の多様な主体との継続的なパークミーティングや管理運営協議会等を設置開催し、各公園を特徴づけるような各種活動や地域に根付いたイベント等について連携して推進するとともに、管理運営の方針検討の場などにおいて、子供等を含めた幅広い意見を反映できるような仕組みづくりに取り組む。

２）本公園の運営管理における留意事項

①民間活力導入・パートナーシップの推進

都立公園の活性化や魅力向上を目的に、一部の広場において、民間の活力・ノウハウ・資金を導入したイベント等を受け入れるため、占用許可の基準を緩和している。

②公園の個性を活かした体験や学び場の提供

自然観察会やガイドウォーク、学校の環境教育と連携したプログラムなどにより、子ども達から高齢者まで多様な世代が楽しみながら体験や学びができるよう、鳥類園などの自然環境などの資源を活かした取組を行っていく。

③楽しさあふれる公園づくり

本公園の立地や広がりのある空間を活かした、都民協働による大規模花壇づくりなどにより、引き続き、本公園が持つ資源を有効に活用した新しい魅力や個性を創出していく。また、東京 2020 大会の機運を高めるため実施してきたイベントを大会レガシーとして継続するとともに、隣接するカヌー・スラロームセンターと連携す

るなどして、さらなる発展を促進していく。

（４）安全・安心な公園への取組について

地震・台風・大雨などによる被害や感染症等の発生、落枝・倒木や公園施設の老朽化に起因する事故を未然に防ぎ、公園の利用者や周辺住民が安心して公園を利用できるよう、次の通り対応していく。

１）地震災害

・東京都地域防災計画など、既定計画における役割の確認
・巡回点検・応急対応等のマニュアルの理解と実践
・発災時を想定した参集訓練や通信訓練等の実施
・防災関連施設の適切な維持管理

２）気象災害（台風、大雨、積雪等）

・巡回点検・応急対応等のマニュアルの理解と実践
・情報連絡体制の構築
・被害軽減のための事前処置の準備
・風水害時の対応も含んだ防災訓練の実施
・法面保護施設や貯留浸透施設等の維持保全
・樹林地等の保全や踏圧による地表面の踏み固め防止

３）感染症など

・関係部署と連携しつつ迅速・適切に対応
・基本的感染対策の徹底
・感染状況に応じた利用ルールの変更及び迅速な周知

４）落枝・倒木

・日常的巡回時の異常把握と応急処置
・倒木等の恐れのある樹木の定期点検
・計画的な樹木手入れ等の実施
・環境対策や快適な利用のため、樹木剪定等の植栽管理を強化

５）施設の損壊等

・日常的巡回時の異常把握と応急処置
・公園利用者とのコミュニケーションによる不具合の把握
・計画的な補修や取り換え等の実施

（５）改修・再整備の取組について

公園の改修・再整備については、本園の性格・役割や目標に照らし、長期的な視点に立つことを基本とし、改修・再整備の対象となる施設の現況特性等に応じ、個別に方針を定めて行うものとする。

①多様な生物が生息・生育するための環境整備

多様な生物が生息・生育する都立公園とするため、生物多様性を確保するための方針を定め、計画的に整備を行う。

②誰もが快適に利用できる公園づくり

誰もが快適に利用できる公園づくりに向け、公園内の段差の解消、トイレのバリアフリー化や老朽化施設の改修等を推進する。遊具の更新等を行う場合には、ユニバーサルデザインに配慮した遊具広場整備の検討を行う。

Ⅳ 図面・写真

現況平面図　葛西臨海公園
葛西臨海公園駅
JR京葉線
都市高速湾岸線
第3駐車場
第1駐車場
第2駐車場
第4駐車場
開園記念公園ゴーカイ
レストラン
江戸川区
海辺模擬
日本庭園
展望レストハウス
展望広場
バーベキュー広場
芝生広場
沙羅の広場
海上バス待合所
海上バス乗場
葛西橋通り
東京都葛西臨海公園
東京水辺ライン乗場
東京都葛西臨海公園
東京湾
西なぎさ
東なぎさ
0
100
200M
凡例
：都市計画区域
：開園区域
：管理事務所
：売店
：休憩舎
：その他建物
：遊具
：トイレ
：身障者対応トイレ

周辺土地利用図（空中写真）

葛西臨海公園

開園面積　77.86ha
撮影年月日　令和２年

：開園区域

：都市計画決定区域

周辺土地利用図（地図）

葛西臨海公園

この地図は、国土理院長承認（平24関公第269号）を得て作成した東京都地形図（S=1:2,500）を使用（3都市基交第267号）して作成したものである。無断複製を禁ずる。

:公園緑地　:学校
:特徴的な建物（神社仏閣など）
:開園区域
:高速道路
:鉄道

0　500　1000M

N

葛西臨海公園の現況写真　【令和3年8月撮影】

①第１駐車場

②芝生広場西側園路

③観覧車周辺

④芦ヶ池、ｶﾇｰ・ｽﾗﾛｰﾑｾﾝﾀｰ方向

⑤バーベキュー広場

⑥吊り橋

⑦駐車場ゲート

⑧展望広場・花壇

葛西臨海公園の現況写真　【令和3年8月撮影】

⑨東京水辺ライン乗場

⑩鳥類園湿地

⑪東端の休憩所

⑫鳥類園ｳｫｯﾁﾝｸﾞ ｾﾝﾀｰ

⑬鳥類園観察所

⑭ﾚｽﾄﾗﾝ・水族園入口

⑮管理事務所

⑯ＪＲ駅方向

占用基準を緩和する区域図　葛西臨海公園

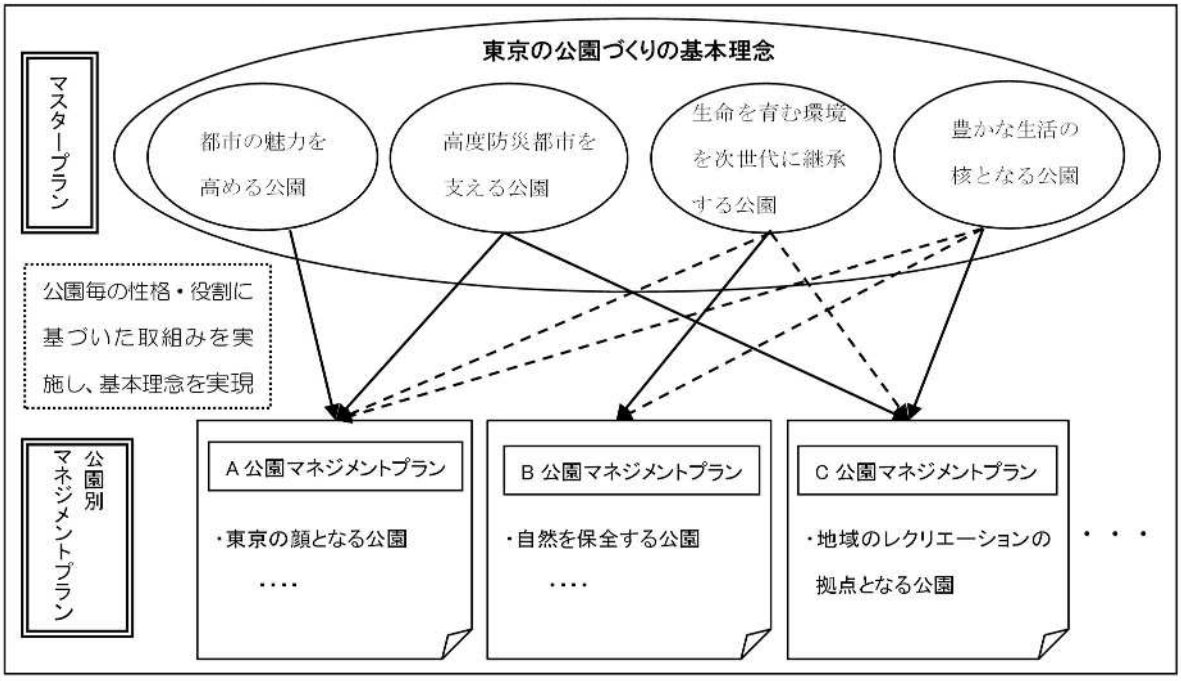
この地図は、国土交通院長承認（平24関公第269号）を得て作成した東京都地形図（S=1:2,500）を使用（3都市基交第267号）して作成したものである。無断複製を禁ずる。

＜資料編＞

資料１　パークマネジメントマスタープランと公園別マネジメントプランについて

・パークマネジメントマスタープランは、「従来の行政主導の事業手法から、都民・ＮＰＯ・企業と連携しながら都民の視点に立って公園を整備・管理する『パークマネジメント』へ転換すべき」との東京都公園審議会答申を踏まえ、平成 16 年８月に策定された。
・当初マスタープラン策定後 10 年の社会状況の変化、当初マスタープランの実施状況、東京都長期ビジョンの策定を踏まえ、平成 27 年３月改定版では、目標に対するプロジェクトを次頁表のように掲げている。
・当該目標に対するプロジェクトについて、葛西臨海公園が担うことになるプログラムには◎を、葛西臨海公園が関係するプログラムには〇を付した。
・また、パークマネジメントマスタープランと本プランとの関係は下図のとおりである。

マスタープランと公園別マネジメントプランの関係



プロジェクト10の公園毎の位置づけ　葛西臨海公園

基本理念	プロジェクト		プログラム	
基本理念1 都市の魅力を高める公園	プロジェクト1 国際的な観光拠点となる公園づくりプロジェクト	(2)オリンピック・パラリンピック開催に向けた公園の整備	オリンピック・パラリンピックをレガシーとした公園の整備	◎
		(3)誰もが利用しやすい公園づくり	バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進 多言語表記、Wi-Fi環境等の充実	◎
		(4)快適な「おもてなし」空間の形成	快適な「おもてなし」空間の形成	○
	プロジェクト2 庭園・植物園・動物園での「おもてなし」プロジェクト	該当なし		
	プロジェクト3 民間の活力導入促進プロジェクト	(2)規制緩和公園における民間イベントの積極的な誘致	規制緩和公園における民間イベントの積極的な誘致	◎
		(3)指定管理者制度の運用改善によるサービスの向上	指定管理者制度の運用改善によるサービスの向上	○
基本理念2 高度防災都市を支える公園	プロジェクト4 防災公園の機能強化プロジェクト	(1)防災公園の整備	救出・救助活動の拠点や避難場所となる公園の防災関連施設の充実	◎
			非常用発電設備の導入	◎
		(2)災害時における公園の有効活用と防災訓練の充実	災害時における公園の有効活用と防災訓練の充実	◎
	プロジェクト5 都立公園の安全・快適プロジェクト	(1)公園樹木の戦略的メンテナンスによる安全性・快適性の向上	公園樹木の戦略的メンテナンスによる安全性・快適性の向上	○
		(3)安全・安心な公園とするための取組み	気象災害や感染症等に備えた危機管理の強化	◎
			公園施設の適切な点検と維持・更新	○
			環境負荷の少ない公園づくり	○
基本理念3 生命を育む環境を次世代に継承する公園	プロジェクト6 水と緑の骨格軸形成プロジェクト	(1)水と緑の骨格軸の拠点となる公園、街路樹の形成	都立公園による緑の拠点の形成	◎
	プロジェクト7 都立公園の生物多様性向上プロジェクト	(1)生物生息・生育空間の整備と管理	生物生息・生育空間の保全・再生・創出	◎
			公園内の動植物の保全・育成活動の充実	◎
	プロジェクト8 自然とのふれあいプロジェクト	(1)自然体験活動、環境教育の拠点としての公園等の活用	自然観察会、環境教育プログラム等の充実	◎
			多摩の森林の大切さを公園でアピール	○
基本理念4 豊かな生活の核となる公園	プロジェクト9 都立公園の魅力向上プロジェクト	(1)都民ニーズの把握と施策への反映	都民ニーズの把握と施策への反映	○
		(2)公園の魅力発掘事業の展開	ヘブンアーティスト、野外劇などへの場の提供	○
			ライトアップ、大規模花壇による魅力の創出	◎
			公園利用のアイデア募集	○
		(3)子どもの育成、スポーツによる健康づくりの場としての公園利用	子どもの心身の育成と多世代交流の場づくり	○
			公園でのスポーツによる健康づくり	○
	プロジェクト10 パートナーシップ推進プロジェクト	(1)公園情報の受発信と管理所機能の強化	公園情報の受発信と管理所機能の強化	◎
		(2)都民からの寄付の受入れ	公園・動物園サポーター制度の実施	○
			都民や企業からの寄付による公園施設等の設置	○
		(3)都民・NPO・企業等との連携による公園づくりの推進	ボランティア活動と都民協働のさらなる推進	◎
			鉄道会社、旅行会社、地域の文化施設等との連携の推進	○
		(4)都立公園を支える人材の育成	都立公園を支える人材の育成	○

資料２　葛西臨海公園に関する資料

（１）公園の沿革

昭和 47 年 1 月 1972 年	東京都告示第 40 号「東京都市計画葛西臨海公園」として面積 184.8ha を計画された。この公園は、広域公園として次の 2 点に対応している。(①自然環境としての海を保全し修復する。②東京都市計画公園系統の一環を構成する臨海公園を配置する。) 都市計画区域は、陸 77.6 ha、水域 107.2 ha から成り、このうち水域については、海上公園区域「葛西海浜公園」(面積約 442.5 ha) と重なって指定されている。基本計画は、都市計画区域の指定を受けた約 184 ha のうち、陸地約 77 ha が対象となっている。
昭和 60 年 1 月	葛西沖開発土地区画整理事業の一環として着手した。
6 月 1985 年	東京都告示第 663 号により、都市計画決定。
平成元年 6 月 1989 年	公園の一部である約 38 ha を開園
平成 6 年 4 月 1994 年	鳥類園ゾーンを開設。
平成 7 年 7 月 1995 年	展望ハウスを開設。
平成 11 年 4 月 1999 年	バーベキュー広場を開設。
平成 13 年 3 月 2002 年	大観覧車を設置。
平成 29 年 10 月 1 日 2017 年	2.95ha を廃園
令和 3 年 9 月 1 日 2021 年	0.14ha を追加開園

（２）公園の自然・社会環境

１）自然環境

・葛西臨海公園は、東京都の東端部である荒川、中川放水路と旧江戸川河口に囲まれた位置に埋立造成された「葛西沖開発土地区画整理事業」用地の一部にあたる。

・葛西沖埋立地の特色は、中央防波堤に囲まれた内水域の埋立ではなく、東京湾の水域と内陸部とが直接面していることが特筆され、南側水域には遠浅な三枚洲、高洲干潟を持つなどの点があげられる。

・葛西沖埋立地は、利根川・荒川水系によって形成された沖積低地の一部に属し、荒川・江戸川の河口に形成された広大な洲を埋立造成してつくり出された土地で、周辺はきわめて平坦な地形である。

・東京低地の東端に位置し、武蔵台地と下総台地のほぼ中間に位置する。ここの地層構造は、地表面から約 10 メートルに及び軟弱な沖積地盤上に細砂を主成分とした凌渫土砂を数メートルの厚さに盛土し、さらにその上に建設残土を盛って、埋立造成されたものである。

・埋立が始まった昭和 47 年以前の葛西沖は、地盤沈下の進行もあって水田、蓮田、沼地等にはヨシースゲを中心とする湿生草地があり、ヨシ群落、チガヤ・ススキ

群落に相当する植生状態であったと言われる。
・隣接する都立葛西海浜公園の干潟は、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地であるラムサール条約湿地に登録されている。
・本公園の隣接地に、2019 年にカヌー。スラロームセンターが整備され、東京 2020 大会において、カヌー（スラローム）の競技会場として使用された。

２）社会的環境

・東京駅からＪＲ京葉線で東に約 10km のところにある葛西臨海公園駅の南側に位置している。また、北に約 2km のところに東京メトロ東西線の葛西駅がある。
・都市高速道路網第２環状の一部である首都高速湾岸線があり、その葛西ランプが葛西臨海公園に隣接している。また環状７号線と首都高速湾岸線との立体交差部に公園正面入口用地があるなど、自動車交通利便性が高い。
・公園に西側には下水処理場がある。
・また、江戸川の対岸の千葉県側には、東京ディズニーリゾートがある。

（３）園内のトピックス

①芝生広場地区
　緩やかな勾配の芝生広場を中心に、蓮池、散策路、樹林、休憩舎、宿泊施設のある地区

②汐風の広場地区
　親水護岸に沿う緩やかな勾配の芝生広場、東京湾を望む展望レストハウス「クリスタルビュー」、芦ヶ池などがあり、臨海部の景観や潮の香りが満喫できる地区

③水族園地区
　公園中央部に設けられた葛西臨海水族園の施設を中心とする海の生物とのふれあいを楽しめる地区

④鳥類園地区
　核となる鳥類園ウォッチングセンターでは、レクチャールームや情報コーナーで、鳥に関する映像や展示を行っている。２つの池、観察小屋、観察窓などがあり、野鳥等の自然観察ができる地区

⑤人工渚地区（計画区域の水域部分に相当する。海上公園の施設。）
　海上には葛西渚橋で結ばれた人工渚（港湾局所管・葛西海浜公園）があり、春から夏にかけては、大勢の水遊び客で賑わう地区。人工渚は西、東とあり、東なぎさは、立入り禁止で、野鳥の楽園となっている地区。東なぎさはラムサール条約湿地に登録されている。

（４）本公園の管理運営にあたって留意すべき法や条例

・鳥獣保護管理法
・東京都景観条例
・東京における自然の保護と回復に関する条例　等

（５）利用状況等データ

１）公園占用の状況

（件）

項目	２年度	元年度	３０年度	２９年度	２８年度
写真撮影	296	598	613	429	437
映画等の撮影	83	106	129	104	78
その他	218	349	443	574	450

２）主な催し物

令和２年度実施分

種別	No.	事業名	実施期間	参加人数（人）
イベント	1	日本の四季イベント	1 月	－
	2	ナイトウォッチング	8 月	4,963 人
	3	秋の公園フェスティバル	10～3 月	魅力発見・探検ツアー24 人、クイズ 5,044 人、星空観察会 43 人、TSUNAMIVIOLIN 4,170 回
自主事業	1	防災ショールーム PR	10 月～12 月	549
	2	工作教室	12 月	13
	3	写真展	1 月～	応募 117
	4	介助用電動車いすの寄贈受入	4 月～3 月	147
	5	スポーツイベントの開催	1 月～3 月	609 組
都民協働	1	地域連携防災訓練	9 月	防災訓練 57 人、閲覧 3,601 人、DVD20 団体
	2	鳥類園での環境学習イベント	9 月～12 月	ガイドツアー116 人、自然感察ツアー49 人
	3	公園連絡協議会	1 月	－

令和元年度実施分

種別	No.	事業名	実施期間	参加人数（人）
イベント	1	日本の四季イベント	4月～7月／12月～1月	－
	2	野菜等の栽培体験	5月～8月	24
	3	ナイトウォッチング	8月	110
	4	サマーフェスティバル	8月	30,500
	5	秋の虫聞き	9月	57
	6	スポーツ教室	12月／2月	16
	7	秋の公園フェスティバル	11月	66
	8	水仙まつり	2月	24,000
自主事業	1	防災体験会	10月	23
	2	防災ショールーム PR	4月～2月	1,498
	3	工作教室	10月／12月	132
	4	日本の文化体験イベント	11月	30
	5	大型連休ゴミ対策キャンペーン	5月	200
	6	写真展	1月	84
	7	介助用電動車いすの寄贈受入	9月～	91
都民協働	1	公園連絡協議会	4月／7月／12月	－
	2	鳥類園での環境学習イベント	4月～2月	529
	3	花摘みイベント	5月／9月	1,800
	4	地域連携防災訓練	11月	90
占用基準緩和	1	キッズ・ランニング教室	4月	－
	2	葛西臨海公園チャレンジマラソン	6月	－
	3	Rb 坂道インターバルトレーニング	6月	－
	4	第2回 UP RUN 葛西臨海公園マラソン大会	9月	－
	5	ランニングの走力を上げるための練習会	10月	－
	6	第3回 UP RUN 葛西臨海公園マラソン大会	10月	－
	7	ヨガ	11月	－
	8	2019 ACT ファミリーデー	11月	－
	9	ウォーキングイベント	11月	－
	10	健康日本21イベント「葛西臨海水族園ウォーク」	11月	－
	11	第26回ポノルルマラソン	12月	－
	12	クリスマスチャリティーマラソン 2019 東京大会	12月	－
	13	携帯電話電波調査	12月	－
	14	M plus M 冬の 30 kmマラソンの教科練習	1月	－

	15	第 55 回健康マラソン大会	1 月	－
	16	第 3 回 UP RUN 葛西臨海公園マラソン大会	2 月	－

「占用基準緩和」欄は、都立公園活性化のために都立公園条例に基づく占用許可の基準を緩和して実施されたもの。

平成 30 年度実施分

種別	№.	事業名	実施期間	参加人数（人）
イベント	1	日本の四季イベント	4 月～5 月／6 月～7 月／12 月～1 月	－（正月飾り、こいのぼり、七夕飾り、イルミネーション等を実施。）
	2	野菜等の栽培体験	6 月	21
	3	ナイトウォッチング	8 月	89
	4	サマーフェスティバル	8 月	27,000
	5	秋の虫聞き	8 月／9 月	51
	6	スポーツ教室	10 月	35
	7	秋の公園フェスティバル	10 月	6,500
	8	水仙まつり	2 月	35,000
自主事業	1	防災体験会	9 月	9
	2	防災ショールーム PR	通年	－（園の防災施設の使用方法や防災公園の役割など、防災に対する普及啓発。）
	3	工作教室	10 月／12 月	108
	4	日本の文化体験イベント	8 月	120
	5	大型連休ゴミ対策キャンペーン	5 月	300
	6	写真展	1 月～3 月	77
都民協働	1	公園連絡協議会	4 月／12 月	41
	2	鳥類園での環境学習イベント	通年	－（植物観察会や野鳥観察会を実施。）
	3	花摘みイベント	5 月／10 月	1,372
	4	地域連携防災訓練	11 月	108
占用基準緩和	1	劇団おぼんろ　キャガプシー（演劇イベント）	5 月	－
	2	葉加瀬太郎 SUMMER FES’18	8 月	－
	3	劇団どくんご公演	9 月	－
	4	葛西ポノルルマラソン大会	12 月	－

「占用基準緩和」欄は、都立公園活性化のために都立公園条例に基づく占用許可の基準を緩和して実施されたもの。

３）主な活動団体（令和２年度調査）

団体名	活動内容	人数(人)
葛西臨海公園　グリーンボランティア	花壇づくり	22
葛西臨海公園　ひがた・たんぼ倶楽部	鳥類園での環境学習・維持管理活動	15
葛西東渚・鳥類園友の会	鳥類園自然保護活動	17